



深田 照明 議員  
(清流会・かさいを育む会)

## 新加西病院建設計画の方向性は



**問** 建設費総額が 78 億円から 138 億円に高騰した要因は。

**答** 基本計画では 78 億円、基本設計では免振機能等の追加で 98 億円、今年の実設計では 138 億円と急激に高騰しました。基本設計から実設計にかけての 40 億円増加の内訳は、建設資材の高騰約 24 億円、安全性、環境配慮等 8 億円、数量・仕様等の見直し 7 億円、システム更新 1 億円です。特に主要な建設資材で平均 13.3%、30% 以上アップしているものもあります。

**問** 新病院建設見直しについての市長の思いは。

**答** (市長) 建設予算が 138 億円になった時点で再検討するのが常識だと思います。現計画では工事騒音、駐車場不足などにより患者数が減り、収入が二、三割は必ず減ると考えます。年に 3 割減で 15 億円、工事期間 3 年で 45 億円と大きな減収です。また、病院の方向性の変更により診療科、機能も変わり、診療単価も減って相対的に今より収入減になると考えます。そこで、新しく広い場所に移転して総合的な診療ができるような展開を図ります。

**問** 見直しについて市民や関係者の理解をどのように得るのか。

**答** 既に神戸大学や兵庫県、加西市医師会、商工会議所等

には現計画の凍結と見直しを伝えて理解を得ていますが、今後も市民や病院職員、関係者の声をしっかりと聞いていきます。

**問** 今後の建設スケジュールは。

**答** 基本構想、基本計画の見直し、用地選定などが必要となり、農地であれば農振除外や農地転用許可等に時間を要して計画期間が延びるおそれがあります。北播磨医療圏構想の中で 2030 年度に病床数 136 床を表明していますので、それを 1 つの目標に建設を進めていくことになります。

**意見** 医療者確保による経営的な改善を図る意味でも、見直し検討にはスピード感を持って取り組んでいただくとともに、市民や病院職員の思いを計画に反映し、最善の病院が早期に建設されることを望みます。



西脇 親 議員  
(改革未来・自民の風)

## 行政の地域づくりへの支援とウクライナへの寄附について



**問** ふるさと創造会議は、継続されていくのか、地域づくり交付金はこれまでどおり今後も交付されるのか。

**答** (市長) ふるさと創造会議は、非常によい施策だと認識しており、今後も継続して、さらに発展した活動をお願いしたいと考えています。そのため、引き続き支援していく予定ですが、常により支援の在り方は、地域の方々と協議して検討していく必要があると思っています。

**問** 地域主体型交通について、市が主導権を持って地域間格差の是正を図ることも必要なのではないかと考えるが、加西市が目指す地域公共交通と地域主体型交通は？

**答** 地域主体型交通の導入については、地域公共交通導入の手引に基づいてアンケート調査を実施し、その結果を基に各ふるさと創造会議を中心に考えていただき、市はそれを支援しています。地域の課題解決として、ふるさと創造会議に担っていただいて実施できればと考えています。地域公共交通計画の中でも、地域内移動については地域主体型交通が役割分担するという方向で位置づけされており、現状においてはそのような進めたいと考えます。

**問** ウクライナへの 1,000 万円の寄附について、適正な判断による適正な支出であったと考えられているのか。

**答** (市長) ウクライナの問題は国際問題ですから、一地方自治体、しかも何のつながりもない当市が出しゃばるようなものではないと考えています。1,000 万円もの予算を予備費から充当していますので、手続上は補正予算として予算議決、もしくは事件決議として審議を受けて議決を得なければよいことです。この件に関しては、事件決議として、なぜ議会の議決を得ていないのか不思議です。ただ、合法的に寄附されたということですが、この手続がなぜできなかったのか、不審に思います。